

品種と技術、その後 . .

小粒品種「すずかれん」の普及と加工適性

【育成の背景】

現在、熊本県と福岡県、三重県で主に生産されている納豆向け小粒大豆品種「すずおとめ」は、葉焼病に弱く、高温多湿など発病に適した条件が重なると被害が大きくなり、罹病部が枯死するだけでなく、早期に落葉して子実が小粒化するなどの品質低下や収量低下の被害が発生し問題となっていました。

【「すずかれん」の特長】

「すずかれん」(写真1)は、葉焼病に強い小粒の多収品種で、「すずおとめ」と同等の納豆加工適性を有しています。さらに、大豆の重要害虫であるハスモンヨトウ幼虫に対しても高い抵抗性を有することから、収量や品質の安定化だけでなく、薬剤防除の低減による低コストで環境に優しい農業技術に適した品種として期待されています。

【熊本県での取り組み】

「すずかれん」は2011年3月に熊本県で認定品種として採用されました。2014年度からは実需者、生産者、農業関係者、熊本県、山鹿市が参画する地域コンソーシアム支援事業で「すずかれん生産拡大協議会」を設立し、「すずかれん」の普及に向けた取り組みを強化しました。本事業では、生産者、実需者及び関係機関が一体となった取り組みとして、

「すずかれん」の生産体制を強化するとともに、同品種を使用した新商品の開発およびPRを行い、「すずかれん」の生産から販売までの一連の体系を確立し、生産拡大を図ることを目指しています。

2014年度の本協議会の活動として、「すずかれん」の展示圃場を設置し、生育調査、収穫調査を行うとともに、現地検討会を実施しました(写真2)。また、「すずかれん」を用いた豆腐、納豆の試作を行い、学校給食へ試験配布し、アンケート調査を行いました。

2015年度以降の取り組みでは、「すずかれん」の作付面積を拡大して栽培試験、豆腐、納豆の一般消費者への試食・販売の検討、他の加工食品の試作などの検討が予定されています。

【その他】

今回取り上げた熊本県下での取り組みの他にも、三重県で奨励品種決定調査が進行中です。また、「すずかれん」は、納豆以外でも実需者による試作評価で味噌加工適性が高いことが明らかになっています。また、豆腐加工適性に関しても実験室レベルではフクユタカに近い評価を有することが示されており、今後、様々な用途で利用が進むことが期待されます。

【作物開発・利用研究領域 高橋 将一】



写真1 九州沖縄農業研究センター育種圃場での成熟期の様子
左:「すずかれん」、右:「すずおとめ」



写真2 山鹿市鹿本町「すずかれん」展示圃場の様子
(2014年9月22日 高橋幹氏撮影)